



リレーエッセイ

ハードルを越えて

みなみ ともゆき
南 明志さん
(鹿児島市)

26

平成24年から、鹿児島市視覚障害者協会の事務職員(現在は事務局長)として働いています。29歳です。先天性の緑内障で、盲学校の高等部(2年)の頃に視力を完全に失いました。盲学校卒業後は鹿児島国際大学の福祉社会学部へ進学。これまで多くの人に支えられ、サポートを受けてきたからこそ、今度は自分が障害を持つ方の力になりたいと強く思ったからです。国際大学では大学院の博士課程を修了し、その後も研究生として学びの日々を過ごしました。在学中にはボランティアサークルに所属し、積極的に健常者や一般学生との交流を深めました。大学院の研究では「中途視覚障害者の障害受容について」をテーマに修士論文を執筆。主に障害受容におけるピアサポート(同じような立場の人によるサポート)の重要性について論じました。

研究生修了後は鹿児島市視覚障害者協会に勤務し、主に行事や会議などの企画・運営を担当しています。パソコンを使った業務ではスクリーンリーダー(音声読み上げソフト)を使用し、ワードで書類作成を行います。また、市の委託事業として「かごしま市民のひろば」や「市議会だより」などの点字版の点訳、音声版の編集などを行っています。

平成26年には、職場や家族のサポートを受けながら、熊本YMCA学院の精神保健福祉学科通信制へ入学しました。精神保健福祉士の資格を取得して、視覚障害者だけでなく、様々な障害を持つ方や高齢者などへの相談支援業務に取り組むためです。月に2回のスクーリングでは盲導犬のブルーノと一緒に新幹線に乗って熊本へ通いました。しかし視覚障害者による精神保健福祉士の資格取得はあまり前例がなく、盲導犬と一緒に実習できる病院がなかなか見つかりません。縁あって鹿児島市の坂之上病院が実習を受け入れて下さり、無事に合格通知がポストに届いた日の事は忘れられません。

プライベートでは電話相談や相談支援のボランティアを行い、趣味であるサキソフォンを用いて福祉施設や町内会の夏祭り、敬老会などで演奏活動を行っています。日々の仕事や音楽を通して多くの方との出会いがあり、感謝があります。そんな社会との触れ合いこそが、私の生きる力となっています。



盲導犬のブルーノと共に。パートナーとなって5年。活動範囲は格段に広がり、熊本のYMCA学園にも新幹線に乗って一緒に通われたとのこと。

